

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の飼養・保管を行っております。

<学内規定・関連規則等>

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2016年度

<動物実験の実施状況>

・申請課題数：10件

「高周波が皮膚に及ぼす影響に関する研究」

「免疫活性化物質の評価」

「ホヤ卵内局在タンパク質に関する研究」

「脳神経系・筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「生分解性インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植技術の開発に関する研究」

「クルクミンナノ組織体の抗癌活性評価に関する研究」

「アリ科女王の長期間にわたる大量の精子貯蔵メカニズムの解明」

「オルガネラ形成と機能に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「分裂酵母プロテアソームと相互作用する因子の解析」

「物理的環境に対する応答シグナルとがんの病態制御メカニズム」

<実験動物の飼養保管の状況>

・使用（飼養）頭数： マウス： 27 (40)

<施設等の維持管理の状況>

・飼養施設： 1箇所（F-1号館305動物実験室2）

・実験室： 3箇所（F-1号館312、313、314実験室）

<動物実験等に関する安全管理の状況>

・病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施していません。

・今年度、動物の逸走等の事故は報告されていません。

<教育訓練の実施状況>

- ・実施日時：2016年4月1日および4月26日
- ・出席者：21名（実験責任者となる可能性のある教員および、今年度動物実験に関わる学生全員が参加）
- ・甲南大学動物実験取扱規程、動物実験を適正に行うために必要な諸注意、動物実験の申請および実験計画書、標準操作手順（SOP）等について説明と質疑応答を行いました。今年度の申請課題は、理工学部においては、実質的に動物実験を行うものは教員4名であり、それも昨年度から継続の抗体作製の外部委託であったため、上記の説明の後、質疑ならびに確認を行い終了しました。FIRSTでは、新たな動物実験を行う学生も交え、基本暦な法律に関して、3Rに関して、動物の苦痛分類に関して、など詳細に説明を行うとともに、実験にあたっての注意喚起をおこなった。さらに両会場で2012年「動物の愛護および管理に関する法律」の改正にあたって、今後大学に求められる点の説明を行った。甲南大学では、ほとんど対応済みであったが、各協会等でも推進を訴えています。